

青森県埋蔵文化財調査報告書 第152集

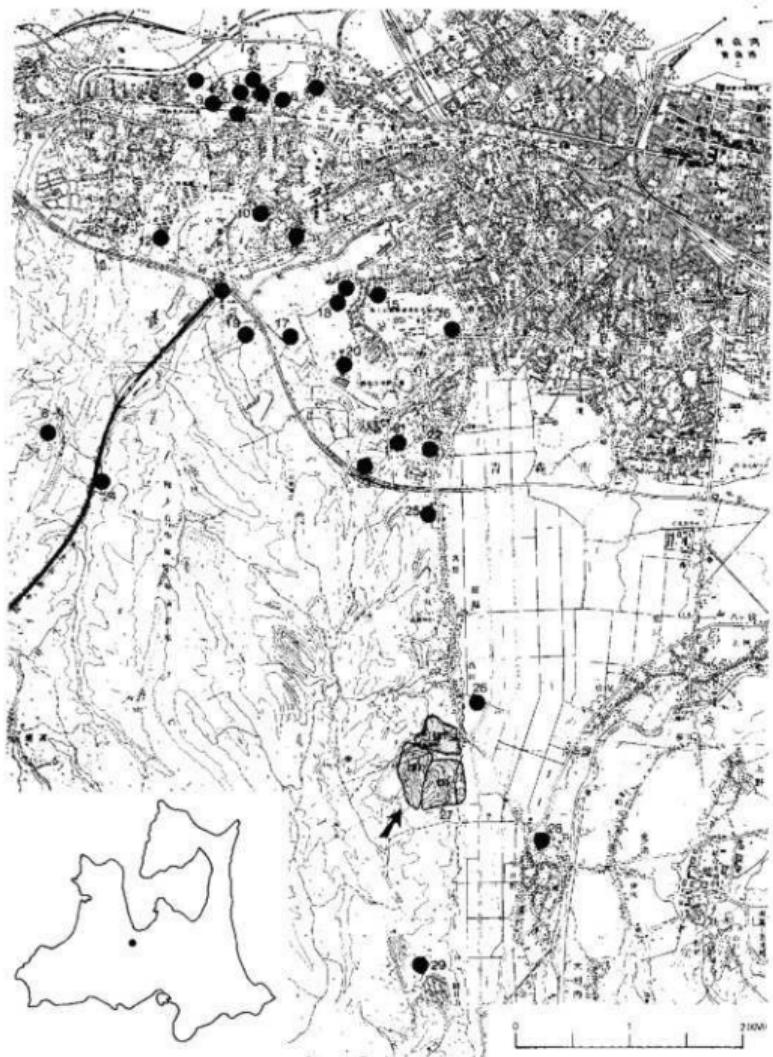
朝日山遺跡Ⅱ

—東北電力株式会社新青森変電所新設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ—

第1分冊 本文編

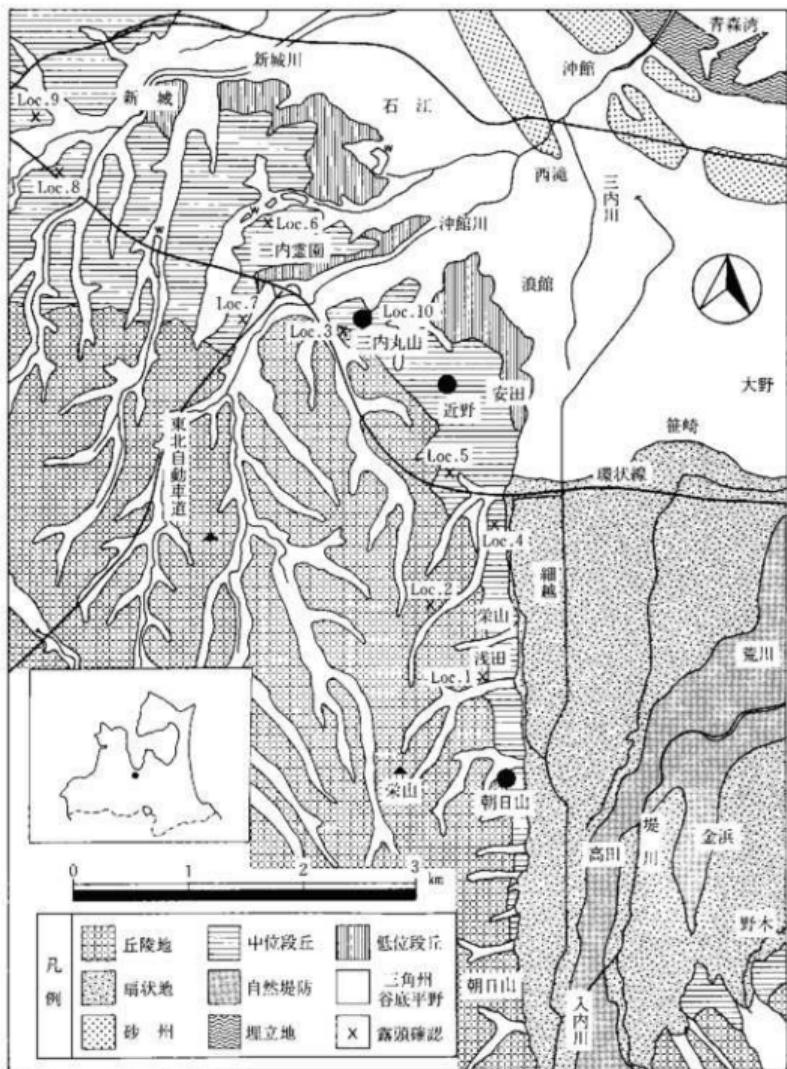
平成4年度

青森県教育委員会

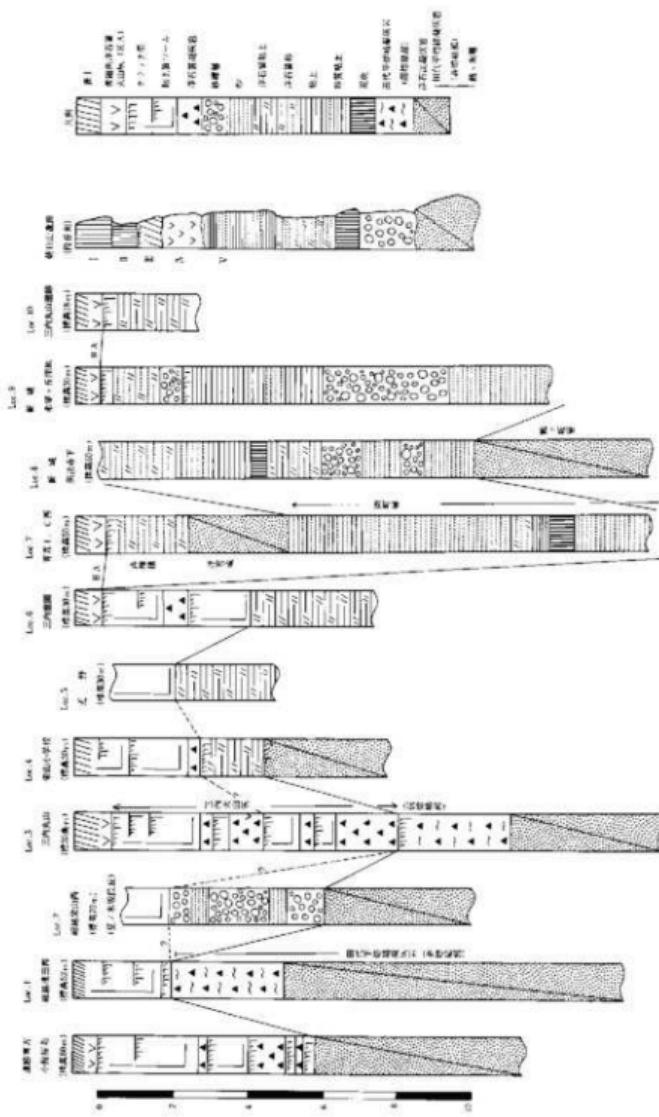


(本図は建設省国土地理院発行の
25,000分の1地形図を使用した。)

第1図 遺跡の位置と周辺の遺跡



第2図 遺跡周辺の地形分類



第3図 滲路及び噴霧周辺の基本層序の模式柱状図

周辺の遺跡一覧表（青森市）

番号	通 駅 名	遺跡番号	所 在 地	種 別	年 代	備 考
1	新城市崎(3)	01062	新城市下岡 石江字高間	散布地	弥生・平安	旧西高校遺跡
2	高 岡 (1)	01070	石江字高間	散布地	绳文 (前)	
3	高 岡 (2)	01071	石江字高間	散布地	绳文 (前・後)	
4	高 岡 (3)	01072	石江字高間	散布地	绳文 (後)・平安	
5	高 岡 (4)	01073	石江字高間	散布地	绳文 (前)・後	
6	高 岡 (6)	01075	石江字高間	散布地	绳文・平安	
7	國 須	01076	石江字興部	散布地	绳文	
8	新城平塚(1)	01067	新城字平塚	散布地	绳文 (前・中)	
9	新城平塚(2)	01069	新城字平塚	散布地	绳文 (後)・平安	
10	江 石	01066	石字平山	散布地	绳文 (前)	
11	江 游	01053	江字江渡	散布地	绳文	
12	二内豊岡	01018	二内字平山	散布地	绳文 (前・中)	「二内豊岡遺跡調査報告」市 (昭37) 注 1
13	二内豊原(1)	01064	二内字豊原	集落跡	绳文 (前・中・後)・平安	「三内町部屋跡全般調査報告」昭41裏。(昭53) 注 2
14	小、三 内	01017	二内字丸山	集落跡	绳文 (前・中・後)・平安	「日本弓山字牛ノ原報「6、8、9、11」・「県道跡地図」(平4)
15	奥 館 (1)	01011	二内字丸山	散布地	绳文 (前)	「青森市の原始時代研究試験」1 (昭43) 注 3
16	奥 館 (2)	01012	浪折字平岡	散布地	绳文 (中・晚)	「青森市の原始時代研究試験」1 (昭43)
17	二内丸山(1)	01020	二内字丸山	集落跡	绳文 (前・中・後)・平安	「近野遺跡」(Ⅲ)・「二内丸山」(Ⅱ) 「唐津完施遺跡報告書」昭33集 (昭52)
18	二内丸山(2)	01021	安田字五野	散布地	绳文 (前・中・後)	「三内丸山遺跡全般調査報告」市 (昭63)
19	二 内	01019	二内字丸山	鋪路・集落跡	绳文 (前・中・後)	「青森市二内道路全般調査報告書」(昭58)
20	近 野	01005	安田字五野	集落跡	绳文 (前・中・後)	「安野遺跡全般調査報告書」(1) ~ (N) 呉 (2・22・33・47裏) (昭19・50・52・54)
21	安田木天宮	01014	安田字五野	散布地	绳文 (中・後)	「青木史字」(昭37)
22	安 田 (1)	01015	安田字五野	散布地	绳文 (前)	「青森市の原始時代研究試験」1 (昭43)
23	安 田 (2)	01016	新船字家山	散布地	不明	「新潟遺跡全般調査報告書」昭38集 (昭53)
24	舞 江	01055	岩波字家沢	散布地	绳文 (早~晚)	「青森市舞江の原始時代研究試験」1 (昭43)・「北海道考古学」7 (昭46)
25	舞 江	01066	綿越字家山	城 鎧	古墳 (5世紀)・平安	「綿越遺跡全般調査報告書」昭43集 (昭59)
26	舞 江	01013	綿越字種瓦	散布地	绳文 (晚)・平安	「朝日山遺跡」(昭87集 (昭59))
27	朝 日 山	01055	高出字朝日山	集落跡	绳文・平安・中世	「青森県の中世城」(昭58)
28	高 田	01170	高田字朝日山	城 鎧	中世	「青森県の中世城」(昭58)
29	高 田	01171	高田字朝日山	城 鎧	中世	

注 1 青森市教育委員会発行の『郷土文化財調査報告書』は市と略記。

注 2 青森市教育委員会発行の『郷土文化財調査報告書』1 北林八浦町 外ヶ浜郷上野先公

注 3 「青森市原始時代研究試験」1

分には周溝は巡っていない。

[柱穴・ピット] 床面及び壁際から4個の穴が検出された。いずれも本住居に伴うものかどうかは判らない。

[カマド] 東壁南寄りに構築されている。袖は粘土をつき固めて構築し、芯材は使用されていない。燃焼部火床面は袖部のほぼ中央部分にあり下部は座んでいる。直径は約40cmである。火床面の奥には伏せられた土師器と半月状の扁平な礎が支脚として設置されていた。煙道下部は地山を掘り残して構築している。煙出し孔は検出できなかった。

[出土遺物] 覆土中より、土師器・須恵器片が出土した。

[その他] 出土した遺物から本住居は平安時代のものと考えられる。

(長瀬 異)

第3号堅穴住居跡ピット計測表

No	規模(cm)	深さ	形状	No	規模(cm)	深さ	形状
1	32×29	31	円形	3	38×32	17	椭円形
2	48×41	33	椭円形	4	30×27	28	円形

第5号堅穴住居跡 (第6図)

[位置] O-24・25グリッドに位置する。

[確認状況] 調査区域の北端にカマドの上面と落ち込みを確認した。昭和57年度に調査した残り部分である。

[重複] 第6号堅穴住居跡と重複しており、本住居跡が古い。

[平面形・規模] 確認した南壁は220cmである。前回調査した部分と合体すると、方形になると思われる。面積は3.9m²である。主軸方位はN-12°-Eである。

[堆積土] 暗褐色を主体としている。

[壁] 南壁は緩やかに立ち上がる。壁高は10~12cm程度である。

[床面] 平坦で堅緻な造りである。

[周溝] 認められない。

[柱穴・ピット] カマドの袖の下からピットを1個確認した。

[カマド] 南壁東寄りに構築されている。残存状態はこの遺跡としては、良好であるが、煙道部より上部は削平されて残存していない。燃焼部火床面は、明確でなく、焼土粒の散らばる範囲は、直径25cmである。袖は床面に粘土をつき固めて構築しており芯材は使用されていない。煙道下部は、地山を掘り残して構築している。煙出し孔は検出できなかった。

[出土遺物] 覆土中より土師器壊の破片が出土した。

(三浦 孝仁)

